第16回全国ＲＹＬA研究会 第2回実行委員会議事録

日時　：　2023年８月８日（火）　17：00～18：00

場所　：　ZOOM

出席　：　□ 右近八郎G　□ 佐藤正道直前G　□ 早川敬介GE □ 泉田征慶GN

　□ 芳賀裕委員長　□ 大木和彦副委員長 　□ 山田稔副委員長　□ 増子博保幹事

□ 箭内一典副幹事　□ 中目公英委員　□ 菅野拓司委員

□ 渡辺浩子全国RYLA連絡会運営委員 □ 記録 副幹事 佐藤龍史

 オブザーバー

□津留起夫事務統括　□ 黒田健一研究部門委員　□ 斉藤朋博直前幹事（幌南ＲＣ）

□ RIJYEM事務局 斉藤睦美

≪司会　増子博保 幹事≫

1. ガバナーあいさつ　　　　　　　　　　　　　ガバナー　右近八郎
2. 実行委員長あいさつ　　　　　　　　　　　　委員長　　芳賀　裕
3. RIJYEM事務統括あいさつ　　　　　　　　　事務統括　津留起夫
4. 協議事項

◎芳賀委員長より福島会議の概要説明

・大会テーマについては、第１回実行委員会で説明した「RYLAからロータリーの未来を語ろ

う」という趣旨でお願いしたい。

・研究会の大きな目的は情報交換であるので、実践報告を踏まえアンケートを資料にシンポジ

ウム形式で行うことを考えている。

・翌日の分科会についてテーマはこれからだが、今までの経緯を踏まえたテーマにして、札幌

会議同様に本会議の中で報告をしてもらう。

・過去のテーマとして「学友会、カウンセラー、危機管理、現状等」があるので、次回の実行

委員会より詳細の検討を進めていきたい。

　　　　・委員長会議について、９月10日に全国の連絡会の中で協議がされる。（次回の開催地区や規

約修正について）

・ 本日はこのような内容で研究会が開催されることを共通認識として持ってもらいたい。

 〇司会 増子幹事

　　　　・前回の委員会の中で、RYLAを実施していない地区の方にも参加をいただき、RYLAの素晴らしさを理解してRYLAを実施する地域を増やしていく機会にしたいという意見も出ていた。

　　　　・またアンケートについてどのような中身にするかまた、どのように活用していくか。

　　　〇芳賀委員長

　　　　・10地区近くが実施されてなく、またコロナ禍で中断する地区もある。

参加を促していくことが大事である。

　　　　・アンケート（案）について説明

　　　〇津留事務統括

　　　　・プログラム拡大がアンケートの大きな目的であり、地区独自で作ることから広範囲から作る

場合と焦点を絞って作る場合と様々である。

　　　　・今回福島で作られたアンケート（案）で良いと思う。

　　　〇芳賀委員長

　　　　・アンケートの結果を研究会の中で報告する。

　　　　・アンケートの内容を事例報告としてシンポジウム等で発表してもらう事も考えている。

　　　　・できるだけ回収を早めて、活用できる範囲を広げていきたい。

　　　　・アンケートの内容は、まとめやすく簡潔にするためにお盆明けまでに意見を出してほしい。

（A4 １枚くらいにまとめたい）

　　　〇RIJYEM津留事務統括

　　　　・11月には回収したアンケートをまとめ、活用方法を検討したいので9月の委員長会議の後には発送できれば良いと思う。

　　　　・原稿をいただければ、アンケート担当はRIJYEMが行う。

　　　〇RIJYEM黒田研究部門委員

　　　　・RYLAは箱の問題と中身の問題があり、全国研究会は中身の問題を中心に運営してきた。

　　　　・20年ぶりに開始した2780地区（神奈川）のRYLA事例を後日報告する。

　　　◎佐藤龍史副幹事よりホストクラブの役割について説明

　　　　・郡山市熱海は全国からのアクセスが悪いため、前泊（２日間泊）になる地区が多くなると予想される。

　　　　・札幌会議はハイブリッド方式で199名が参加した。福島会議については早めに決めないと対応や予算が変わってくる。

　　　　・各委員会については、実行委員会と連携をして詳細を決めていく。

　　　　・８月　会員への通知を例会にて行い各員会の正副委員長の選任をする

　　　　・9月　第３回実行委員会後に最初の正副委員長会議を開催する。

　　　　・また地区実行委員会と連携を取るため、実行委委員会会議への参加も要請する。

〇RIJYEM津留事務統括

　　　　・ロータリアンだけの会議は対面がほとんどだが、ローターアクトが参加する会議などはハイブリッド方式で行っている。

　　　　・会議の内容をビデオにまとめ、各地区に配る方法もある。

　　　〇芳賀委員長

　　　　・福島大会ではオンライン参加はせずリアル参加のみにすることで良いか。**（全員賛成）**

　　　　・集まりやすい地区（東日本）からの参加も増やしていくことが福島会議の役割だと思う。

　　　◎芳賀委員長より予算案について説明

　　　　・登録費は1万2千円（150名）、学友等20名（5千円）の予定

・懇親会は1万の予定。

・地区支援金は最大限の金額で組んである。。

・会場費100万円（看板作成等含む）の支出予定

・パンフレット、プログラム、報告書70万円

・謝礼金30万

　　　　・会場となる華の湯さんとも今後、交渉が必要である。

　　〇司会　増子幹事より県・市からの助成金について説明

　　　　・100名～199名　福島県から15万円、郡山市7万5千円の可能性がある。

　　　　・イベント参加の人数規模により金額が決まるが、他の助成金についても調べてみる。

　　　　・華の湯さんと宿泊料金も含め今後交渉を進めていく。

　　　　・洋室が19部屋しかないので複数での部屋の利用を進めていく。

　　〇渡辺浩子全国ＲＹＬA連絡会運営委員

　　　　・二次会（車座座談会等）も用意できれば。

　　　　・前泊の方には有料でミニ観光も良いのでは。

　　　　・VTR作成の場合は新たに機材等の予算がかかるので要検討。

　　〇佐藤正道直前ガバナー

　　　　・裏磐梯の散策も良いが、許される時間がどのくらいかが問題である。

　　　　・遠方より来られる方には、個室部屋を希望されるケースが多いので、近隣の旅館も確保してお

　　　　　いた方が良いのではないか。

5.　閉会あいさつ　　　　　　　　　　　　　　　　　　大木和彦副委員長

以上、全て議事が終了して、18：00に閉会となる。

次回の第３回実行委員会は、９月12日（火）17：00～18：00　ZOOMにて開催。